

PM資料ガイド

項目	Feasibility Study	Rev.	年月日	作成
	フィージビリティ・スタディー	0	04.03.31	JPMF 教育部会
対象	一般			
視点	基本解説			

Feasibility Study フィージビリティ・スタディー

1. フィージビリティ・スタディーとはコンサイスカタカナ用語辞典で「企業化調査，採算可能性調査．企業が新規分野に参入しようとする時，それが採算に合うものであるかどうかを知るために行う調査」とある。

2. フィージビリティ・スタディーの用語解説としては、社団法人 日本機械工業連合会と財団法人 エンジニアリング振興協会が平成7年3月発行したCAE/PMS 統合化に関する調査研究資料で分かり易くまとめられているので下記に紹介する。

フィージビリティ・スタディー（FS）とは「顧客がプロジェクトに着手するに際し、技術的に可能か、採算がとれるか、事業としての可能性があるか、などを事前に十分調査することである。つまり、企業化のための調査、あるいは採算可能性調査を意味する。（企業化調査、投資調査とも呼ばれる）

調査・検討作業には、市場調査、技術検討、資金計画、社会分析（社会体制、環境）、経済性評価など幅広い分野が含まれる。過去の事例や履歴データベースも有効利用され、効果を発揮する。

3. リスクが高い時のフィージビリティ・スタディーは、より詳細なデータや分析が求められる。特に海外への投資が事例としてあげられるので、海外投資を例としてその手法について参考に記す。

フィージビリティ・スタディーとは、海外へ投資や現地進出などを行うにあたって事前に諸条件を調査し、投資や現地進出などがその企業にとって可能なものかどうかを調査するものである。進出する相手国の政治・経済情勢や外資制度、金融、税制、インフラの整備状況、社会情勢などさまざまな面を調査するひつようがある。事業が成功するかどうかを決める重要な作業なので、徹底的に細かなところまで何度も調査する必要がある。現地を訪問したときに、すぐその場で決めてしまうと失敗してしまうことが多々あります。この調査は1カ国だけに絞り込んで行うのではなく、輸出先市場なども含めて、できるだけ幅広く調査しておくことが必要です。また、現地と日本の考え方のベースに食い違いがあることをよく認識して、妥協点を探しながら、F/Sを行うことも重要ですし、最近、外資受入国の法律改正(外資に対して概して緩和傾向)が多いので、進出先国の最新の外資法を調査し、理解しておかなければならない。

海外進出する場合のフィージビリティ・スタディー（Feasibility Study）の調査項目

- 1．政治・経済・社会情勢 ... (1)政治の安定性 (2)経済情勢
(1)外資に対する政府の態度 (2)経済・産業政策 (3)貿易政策
- 2．政府の政策・制度 (4)地域開発政策 (5)企業活動に関連する法律・規制 (6)日本との関係
- 3．市場 (1)市場の規模とその変化 (2)市場の特性 (3)流通経路 (4)マーケティング関係の法規制 (5)競合状況 (6)その他
- 4．生産諸条件 (1)人的資源 (2)設備、原材料、部品の調達 (3)インフラストラクチャー (4)公害規制と公害発生状況
- 5．合弁のパートナー (1)パートナーの人的条件 (2)資金調達力 (3)政官界あるいは業界における発言力 (4)企業の場合（経営方針、従業員、業績、技術力など）
- 6．資金調達・金融制度 (1)現地における資金調達の可能性 (2)外貨取り入れの可能性 (3)財務リスク情報
- 7．その他 (1)会社設立の手続き (2)本社派遣社員関係 (3)対日感情 (4)気候

<参考図書、文献>

エンジニアリング能力の強化に関する調査研究報告書（1）CAE/PMS 統合化に関する調査研究
発行 平成7年3月 発行者 社団法人 日本機械工業連合会 財団法人 エンジニアリング振興協会
<http://jiten.www.infoseek.co.jp/Katakana> インフォシーク：コンサイスカタカナ用語辞典
<http://www.city.osaka.jp/keizai/kawaraban/data/1706.html> 海外投資の流れと注意点

以上